



①毒ガス資料館

大久野島では、1929年から終戦まで陸軍の毒ガス工場が設置され、毒ガスを製造していました。1932年頃からは秘密の島として、地図からも消されていました。毒ガス製造による被害や戦争の実態を多くの人に知っていただき、悲惨な歴史を繰り返さないよう、毒ガスに関する資料を展示しています。(1988年完成)



②自動交換器室跡 (通信壕跡)

ここには非常の場合に備え、電話の自動交換器が置かれていました。中は6畳くらいの広さで、普段は人がいませんでした。敵の空襲に備え、迷彩を施した頑丈な壕でした。壕の上に色を塗っているのではなく、色の入ったコンクリートが塗り込んであるので、黄色や緑色がそのまま残っています。



③大久野島毒ガス障害死没者慰霊碑

危険で苛酷な毒ガス生産、あるいは戦後の毒ガス処理に従事して傷害を受け、療養の甲斐なく亡くなった人々の名簿が納められています。(1985年建立)

毎年10月に慰霊式があり、悲惨な毒ガスの 被害を繰り返さないよう誓っています。慰霊碑 の横には、亡くなられた毒ガス障害者の思いが 刻まれた宣言もあります。



④大久野島神社 神社前の広場 殉職碑

現在の休暇村宿舎近くにあった神社を毒ガス工場開所 (1929年)の際、従業員たちが社殿を修復して「大久野島神社」とし、現在の場所に移転しました。境内では様々な行事 (紀元節、天長節など) や式 (入学式・卒業式など) が行われました。1937年には、境内に毒ガス生産による犠牲者の殉職碑が建てられました。中央の写真は卒業式の様子です。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。



⑤医務室跡

当初は診療所程度でしたが、1937年頃から入院病棟も建てられ、本格的な病院となりました。病院には歯科、内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科が置かれ、レントゲン室、毒ガス治療室、病室(30ベッド)などがありました。現在は海水浴場前の広場になっており、当時、使用された水道栓が残っています。





⑥陸軍の石柱と境界線

この島が軍用地になってからは、島の灯台と毒ガス工場の 敷地とは厳重な垣根 (有刺鉄線) で隔てられていました。現 在でも、「陸軍所轄地」「大久野島燈標所属地」と書かれた石 柱と、境界の垣根として使われたコンクリート柱や有刺鉄線 が、灯台に向かって上がる石段のところに残っています。

7南部照明所跡

芸予要塞時代(1904年頃)、夜間、海を通る船を監視するために、探照灯(サーチライト)が置かれていた場所です。探照灯で海面を照らし、夜間の敵艦探知を行う場所でした。現在は、電灯井の部分と下の部屋が残っています。



⑧防空壕跡

戦時中、防空壕が島内に約50箇所掘られていました。防空壕は、毒ガスや毒ガス製造に関わる物資を置く場所として作られました。現在でも、防空壕の入り口をあちこちに見ることができます。写真のような石積のあるところが防空壕の入り口です。防空壕の中は、長いもので100m位の穴が掘ってあり、内部でつながっているそうです。

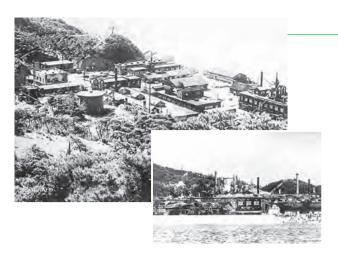




⑨研究室・検査工室

白い建物が研究室です。ここは、毒ガスの研究開発を行う建物でした。毒ガス研究に必要な資料や標本・薬品なども置かれていました。隣の灰色の棟が検査工室でした。この建物では、毒ガスの効力を試す検査などが行われていました。古い写真には、当時のこの2つの建物が写っています。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。



⑩三軒家工場群跡

ここは毒ガス製造の中心となる工場地帯で、びらん性ガス (イペリット・ルイサイト)、くしゃみ性ガス、青酸ガスなどの製造工場や毒ガスを充填する工室、汽缶場、修理工場などの建物が建ち並んでいました。戦後、工場は解体され、現在は広場になっています。古い写真に見られる高い煙突のようなものは、煙を出すのではなく、有毒なガスを排気するためのものでした。



①毒ガス貯蔵庫跡 (休暇村本館西側)

猛毒で皮膚がただれるびらん性毒ガス、イペリットがここに貯蔵されていました。2つの部屋それぞれに、10トン入るタンクがコンクリートの台座に置かれていました。すぐ前にあったイペリットの工場から、管を使ってこのタンクに毒ガスが送り込まれていました。イペリットやルイサイトなどの液体毒ガスは、内部に鉛を貼った鉄製のタンクに入れていました。

12野ざらし貯蔵タンク跡

イペリットなどの毒ガスが貯蔵されていました。毒ガスタンクを置いていた台座が32個もあり、たくさんの毒ガスが貯蔵されていました。現在、周りは森林になっていますが、当時は少し高い平地でした。この貯蔵庫は、コンクリートの部屋ではなく木造の建物で、簡単な屋根がついていました。



13長浦工場群

この地域は長浦地域といい、毒ガス工場ができるまでは田畑が耕作されていました。ここには硫酸タンクや催涙ガス製造工室、真空蒸留工室などの毒ガス製造工場と製品倉庫が立ち並んでいました。右の建物はドイツ式イペリット製造工室、左上は発煙筒工室です。現在は、運動広場やテニスコートになっています。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。